

## 兵庫県における数種タマゾウムシの産地

( 兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 3 0 )

高 橋 寿 郎

日本におけるタマゾウムシ亜科 (Subfamily Cioninae) のものは種数が割と少ない。1930年河野広道博士は2新種をふくむ1属6種の当時の日本産タマゾウムシの検索表を示された。1959年には森本桂博士が日本産タマゾウムシ亜科4属9種を目録にされたが1984年に発表された目録では4属7種となっている(この目録の内1種には疑問符がつけられていてこの種に就いて森本博士の解説がある、1983. B記号がついているので、この4属7種で日本産の70-90%に当たることになる)。河野博士以後この亜科の追加種は1956年四国から Voss 博士により記載された種があるだけである(Voss 博士の論文では近似2種との検索表も示されている)。

まだ日本産タマゾウムシ亜科のものに就いては流動的なものがあるが、既知種は4属9種と考えられその種類も少ないグループのようである。

原色による図説は横山桐郎博士(1931)1種。中根猛彦博士、3属5種(1963)。竹中英雄氏、3属4種(1975)。森本桂博士、3属6種(1984)がそれぞれある。また、生態に就いては井上元則博士(1941, 1953)、大野正男教授(1955)、中條道夫博士(1958)の貴重な報文がある。割合と独特の形態をしており同定が難しいグループではない様に考える。

ところで、このグループの兵庫県産と云うものは現在の所3属8種が記録されている(内2種は種名が確定出来ていない)。結構県下に分布しているのであるが、夫々の記録と云うものが大変少ない。筆者も未採集の種もある。ここではその内5種について県下での産地を中心に若干紹介しておきたいと思う。

### ○ シロオビタマゾウムシ *Steronychidius galloisi* (Hustache)

兵庫県下では養父郡水の山の記録 [lex., 8-VII-1873, Ohkura leg. 畑中, 1977, 高橋, 1981] が知られているだけであったが、筆者は西宮市船坂(六甲山北面山麓)で1頭採集した(lex., 5-VI-1987)。この種に就いては生態なども良くわかっていないようであり森本博士も少ないとされている(1984)。県下での産地が今一つよくわからない種である。爪は1本である。

○ ハイイロタマゾウムシ *Stereonychus japonicus* Hustache

本種は兵庫県下から従来産地が知られていなかったと思う。筆者は次の様に採集している。神戸市山の街 (lex., 29-V-1976)、伊川谷町前開 (8exs., 7-VI-1988)、相生市三邊山 (lex., 3-V-1974)、宍粟郡音水 (lex., 11-VI-1972)。森本博士も少ないと書いておられる (1984)。生態などはよくわかっていない種のようなのであるが神戸市の伊川谷ではウツギの花を網で掬うと割合入って来た。県下に広く分布しているのではないだろうか。この種も爪は1本である。

○ アカタマゾウムシ *Stereonychus thoracicus* Faust

よく知られたヤチダモの害虫である。従ってその生態もある程度知られている (井上, 1940, 1953)。どう云うわけか本種も県下での記録が全く見られていない。神戸市内鳥原池畔の道路横で割合と採集出来る。恐らく広く分布している種だと思っただが記録の見られない種である。

産地：神戸市鳥原 (lex., 25-V-1975, lex., 29-V-1977, lex., 5-V-1982, 3exs., 19-V-1982, 4exs., 23-V-1982, 2exs., 24-V-1982, lex., 25-V-1982, lex., 29-V-1983, lex., 4-VI-1984, lex., 21-VI-1984)

○ クロタマゾウムシ *Cionus hilleri* Reitter

本種の幼虫はキリの葉に粘着して食害することで知られていて、キリノイボゾウムシとも云われている。こちらはキリの樹があれば採集はそれ程苦勞は無い様に思う。県下に広く分布している種のようなのである。本種の幼虫をツマジロカメムシ *Menida violacea* Motschulsky が刺し殺すと云う観察記録を大野正男氏がしておられる (Rostria, No.16, p.65, 1967)。

産地：川西市横池 [仲田, 1978, 1982]。三木市口吉川 (6exs., 3-VII-1986)。小野市山田 (2exs., 7-VIII-1987)。加東郡社町三草 (2exs., 14-VII-1989)。龍野市神岡 (lex., 19-V-1988, 5exs., 21-VII-1988)。氷上郡 [山本, 1958]。養父郡氷の山 [畑中, 1977, 高橋, 1981]

○ クロオビシロタマゾウムシ *Cionus latefasciatus* Voss

本種は始めに記したごとく中條道夫博士が徳島県剣山で採集された4頭の標本に基いて Voss 博士が新種として記載されたものであり (1956)、その後再度同博士は採集に行かれ10個体ばかり見ら

れ、それがオオヒナノウスツボを食している状況も確認、その状況を詳しく説明しておられる(1958)。

最近の森本 桂博士の原色日本甲虫図鑑(Ⅳ)(pl. 57, f. 27, p.292, 1984)でも分布は四国と  
なっている。しかしながら本種を本州新記録として辻 啓介氏が御自身氷の山で採集された1頭(11  
-VI-1972)を記録しておられる(きべりはむし Vol. 1, №1/2, 1972)。

残念ながらその後の記録は現れないが、食草もわかっていることだし、是非再度調査をして見たい  
ものだと考えている。

#### 参考文献

(兵庫県関係のものは省く)

中條道夫、1958. クロオビシロタマゾウムシについて

新昆虫 11(1):24-25.

井上元則、1940. ヤチダモ造林地に発生する害虫と其予防法に就いて

北海道林業試験場時報第25号:1-2.

——、1953. 林業害虫防除論 中巻、p.144-146.

Kōno, H., 1930. Langrüssler aus dem Japanischen Reich.

Ins. Mats. 4(4):145-162.

森本 桂、1962. 日本産ゾウムシ科目録(Ⅰ)

九州大学農学部学芸雑誌16(2):183-217.

——、1983. 日本から記載又は記録されて、その後とれないゾウムシ類(2)

北九州の昆虫 30(3):197-200, pl. 15.

——、1984. List of the superfamily Curculionidea of Japan compiled by K. Morimoto

Nov. 15, 1984, p.1-21.

——、1984. 原色日本甲虫図鑑(Ⅳ). pl. 57, p.292.

中根猛彦、1963. 原色昆虫大図鑑(Ⅱ)(甲虫編)pl. 189, p.377.

大野正男、1955. マルモンカタゾウムシに関する知見

新昆虫 8(8):33-36.

竹中英雄、1975. 学研中高生図鑑. 昆虫Ⅱ甲虫. p.160, 171, 289, 394.

Voss, E., 1956. Über einige japanische Rüsselkafer (Col. Curc.)

Akitu 5(1):13-16.

横山桐郎、1931. 続. 日本の甲虫

Taf. 7, f. 13, p.55.

(AUG. 1989.)